

腫瘍マーカー高値、これってがんですか？ 前立腺がんの新しいマーカー「phi」とは？

文 佐々木裕

text by Hiroshi Sasaki

今日は腫瘍マーカーのお話です。よく健診や人間ドッグを受けられる方も多いと思いますが、そこで腫瘍マーカー検査を行ってないでしょうか。

「腫瘍マーカーが高値です！」なんて結果を見ると私はがんだと思ってしまいますよね。

腫瘍マーカーは、がん細胞やがんに対する体の反応によって作られ、血液中や尿中などで増加している物質のことです。腫瘍マーカーは、必ずしも、がん細胞だけで作られているわけではないのです。

例えば、前立腺がんの腫瘍マーカー、PSA (Prostate specific antigen) は前立腺特異抗原といえます。もともと、前立腺の腺細胞内にある糖タンパク質で、細胞が破壊されると血液中に漏れ出して、数値が上昇します。前立腺がなくても、もちろん上昇しますが一過性の炎症などでも細胞が破壊されると数値が高くなる場合があります。前立腺がん特異抗原ではないのです。それぞれの腫瘍マーカーは何を測定しているのか、各専門の先生に聞いてみるというかもしれません。

前立腺がんに関しては、PSA高値で炎症などが否定的な場合、必要に応じてエコー検査やMRI検査が行われ、最終的には前立腺針生検といった組織を採取する検査が行われます。生検などの侵襲を伴う検査は極力避けたいですよね。

前立腺がんのスクリーニングに関しては、2021年11月にプロステイトヘルスインデックス (phi、読み方ファイ) といった新しいマーカーが保険適用となりました。これは、通常のPSA検査とFree PSA (fPSA) および[-2]proPSAの測定値から算出されるインデックス検査で、前立腺がん診断補助としてPSAグレーゾーンの患者から針生検対象者を絞り込むために有用な検査と考えられています。

PSAグレーゾーン (年齢によって変化しますが、一般的には4~10ng/mL) の患者さんに対して測定が可能な場合があります。検査の適応があるかは、お近くの泌尿器科でご相談してみてください。ただし、これも完璧なスクリーニング検査ではありません。生検の必要性に関しては、MRIを含めた総合評価が重要です。

さまざまな腫瘍マーカーが日々研究されています。近い将来、生検なしで前立腺がんが診断される日が来ることを願ってやみません。

まずは、50歳を超えたら一度はPSAを測定してみましょう。

Profile

佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師

1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がん研究・診断・治療を行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US前立腺融合標的の生検の先進医療では、保険適用に尽力した。多くのがん患者さんが不安を持つなかで、少しでも安心に変えられるような施設の必要性を感じ、2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。メンズヘルス医学会テストステロン治療認定医として男性更年期外来も行っている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように